

## 現地農業情報（沖永良部島・与論島）令和6年2月

### （1）与論島の野菜現地就農トレーナー研修会で新技術を学ぶ

2月14日、指導農業士会主催の野菜部門研修会（今年度3回目）が開催され、青年農業者、関係機関等15人が参加しました。研修会は野菜部門の全実証ほ場を巡回し、さといも疫病や連作障害等に対する新技術を学ぶとともに、徳之島支場と連携したさといも種芋の低温短期貯蔵による萌芽試験についても理解を深めました。指導農業士からは、「3年間の取組で地域の課題となっていたものが解決見込みだ。今後も新技術に積極的に挑戦し、他農家にも伝えてほしい」とアドバイスがありました。



### （2）かごしまブランド赤土新ばれいしょを消費者にPR

2月3日に和泊町、4日に知名町で「春のささやき」のネーミングで関西、中国、九州地区に出荷している沖永良部の新ばれいしょの出発式が開催されました。市場・流通関係者を招き、それぞれ100人を超える参加者でした。10～11月の少雨の影響で作柄が心配されましたが、その後の天候の回復で順調に生育し、当初計画の9,573tの出荷を見込んでいます。2月8～11日には消費地でPR販売を行い、消費者からは、新鮮な新ばれいしょに、おおむね好評を得ていました。



### （3）テッポウユリ「咲八姫」及びトルコギキョウの生産状況の確認

1月29～30日にかけてテッポウユリ「咲八姫」及びトルコギキョウ現地検討会が開催され、生産者及び関係機関20人が参加しました。「咲八姫」では、生産者が昨年度の経験を生かし、施肥や球根サイズ等を変更した栽培に取り組み、3月中旬～4月出しを行う予定です。トルコギキョウでは、栽培状況の確認を行い、品種ごとの栽培特性の把握を行いました。今後も園振協本部や島内関係機関と連携し、生産者への支援を行っていく予定です。



#### (4) 与論地域トルコギキョウ生産振興検討会で活動の進捗を情報交換

2月27～28日、与論町でトルコギキョウ生産振興検討会を開催し、生産者、関係機関15人が参加しました。検討会では、今年度の活動内容の途中経過として、与論地域の自家育苗調査結果や、農業開発総合センターでの品種ごとのロゼット性検定試験結果の報告等を行いました。来年度の活動計画では、引き続き生産・販売実態調査や奄美地域版の自家育苗マニュアル作成、種子冷蔵のみで生産可能な品種の生産性調査を行い、奄美地域における収益性の高い経営モデルを作成する予定です。



#### (5) 花き若手生産者が他産地生産者と活発に交流

2月13～14日、和泊町で沖永良部の若手花き生産者が枕崎の周年菊研究会（以下は枕崎と記載）のメンバーと交流を図りました。室内検討では、沖永良部のスプレーギクのスマートフラワー、無線式小型防除機、自走式防除機、無線式小型耕うん機や枕崎での輪ギクのスマートフラワーや暑さ対策の取組について活発な意見交換が行われました。その後の交流会は、沖永良部の若手生産者が多数参加し有意義な会となりました。今後も枕崎の花き生産者と産地間交流を支援していきます。



#### (6) スプレーマム及びソリダゴ鮮度保持技術の改善実証を行う

沖永良部花き専門農協では、令和4年度からスプレーマムやソリダゴで実需者のゴミ削減と流通コスト低減が期待できるスマートフラワー（通常より10cm短くした70cm規格）の全量出荷を全国で初めて行っています。スマートフラワー規格での鮮度の改善を目的に、1～2月に宮城、栃木、東京での仲卸業、花屋、資材メーカーや市場等で実証を行い、鮮度保持シートによる効果を確認することができました。秋スプレーマムでは、3月彼岸出しから全量その技術を導入することとしました。



#### (7) 女性農業者が花き生産・販売事例や販売PR情報を収集する

2月6～7日、女性農業者が主体に、千葉県の花き生産・販売の優良事例や東京都の花き流通や農産物PRの情報収集を行いました。千葉では、草花の生産法人とSNS等を活用したPR方法及び労務管理等、東京では花き市場や大手のバイヤーと花き流通情報について意見交換を行いました。また、ギフトショー2024で農産物PR、都内ショップで花きのトレンド等の情報収集を行いました。女性農業者は、研修を参考に、えらぶの花のPR素材（花を入れる資材、ポップ等）を作成中です。

#### (8) バイヤーと花きのマーケティングについて意見交換

2月20日、和泊町にて、えらぶの花マーケティング研修会が開催され、女性農業者や花き関係者が参加しました。福岡・東京のバイヤーと2月上旬の東京・千葉研修で収集した情報を参考に、「えらぶの花」のPR素材やSNS活用等について検討しました。また、21日は「咲八姫」のブランディングに向けた取組（ブライダル向けの写真撮影や4月に販売するサブスク）も検討しました。今後も、ブランディングやPR等の活動をバイヤーと連携しながら進めていきます。



#### (9) 生活研究グループ員が地産地消推進・地域づくりリーダー研修

沖永良部地区生活研究グループの7人は2月21日、農大で開催された県生活研究グループ大会に参加しました。翌22日に地産地消推進・地域づくりリーダー研修を開催し、「さくらじま旬彩館」で、女性組織の運営状況、加工施設の運営、地域農産物の利用状況及び加工商品開発について研修しました。また、「大隅加工技術研究センター」では、共同研究による商品開発の状況や食品加工機材の設置状況と活用について研修を行い、貴重な情報収集の機会となりました。

